

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時： 令和4年11月10日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 山内泰樹教授がIEC1906 賞を受賞～電気・電子技術の国際標準化活動への大きな貢献が評価～
2. ニホンザル個体群間の「つながり」を示したマップを公開
～ニホンザルによる被害拡大の予防と個体群の適正保護の両立に向けて～
3. イノベーション教育学会第10回年次大会を山形大学で開催
～「ソーシャルイノベーション人材育成」をテーマに～
4. 宮沢賢治の名作 東北6県の高校生 朗読競う
～第15回山形大学高校生朗読コンクール審査結果発表～
5. 第50回山形大学模擬裁判公演のお知らせ
～「法律の狭間」の存在、ヤングケアラーの“声”とは～

お知らせ

1. 山形大学農学部「研究シーズ集」最新版を刊行しました
2. 「鎌倉殿とほか3人―大河ドラマに便乗展―」～重要文化財「中条家文書」から鎌倉幕府黎明期の古文書を展示中～
3. 山形大学チャットボットキャラクター愛称決定～学生サービス向上にデジタルトランスフォーメーション活用～

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和4年12月8日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（11月10日）発表

1. 山内泰樹教授が IEC1906 賞を受賞

～電気・電子技術の国際標準化活動への大きな貢献が評価～

学術研究院 教授（理工学研究科）

やまうち やすき
山内 泰樹

2. ニホンザル個体群間の「つながり」を示したマップを公開

～ニホンザルによる被害拡大の予防と個体群の適正保護の両立に向けて～

学術研究院 教授（森林動物管理学）

えなり ひろと
江成 広斗

3. イノベーション教育学会第 10 回年次大会を山形大学で開催

～「ソーシャルイノベーション人材育成」をテーマに～

山形大学アントレプレナーシップ開発センター長・教授

おの でら ただし
小野寺 忠司

4. 宮沢賢治の名作 東北 6 県の高校生 朗読競う

～第 15 回山形大学高校生朗読コンクール審査結果発表～

学術研究院 教授（日本文学）

やまもと はるふみ
山本 陽史

5. 第50回山形大学模擬裁判公演のお知らせ

～「法律の狭間」の存在、ヤングケアラーの“声”とは～

第 50 代模擬裁判実行委員会委員長

第 50 代模擬裁判実行委員会脚本部長

次期第 51 代模擬裁判実行委員会委員長

さ さ き ゆ う き
佐々木 裕紀
は が し ん の す け
芳賀 信之介
ま る た そ う
丸田 蒼

令和4年（2022年）11月10日

山内泰樹教授がIEC1906賞を受賞 ～電気・電子技術の国際標準化活動への大きな貢献が評価～

【本件のポイント】

- 山内泰樹教授（視覚情報処理）が2022年度国際電気標準会議（IEC）のIEC1906賞を受賞しました。
- 国際電気標準会議（IEC）において、長期間にわたる電気・電子技術の標準化及びその関連活動に大きく貢献したことが評価されました。



IEC会議にてTC34議長と

【概要】

山内泰樹教授（視覚情報処理／大学院理工学研究科担当）が2022年に国際電気標準会議（IEC）のIEC1906賞を受賞しました。本表彰は、国際電気標準会議（IEC）における国際標準策定にかかわる標準化活動に優れた功績を有する個人を表彰するものです。

山内教授は、2011年以来、IECにおける有機EL照明の標準化活動に従事し、2017年からはIECの技術委員会での議長を務め、標準化活動を主導するとともに、日本からの有機EL照明に関する国際規格の提案、及び成立に向けて尽力してきました。これらの活動及びIECへの継続的な貢献が認められ、昨年の経済産業大臣表彰に引き続き今回の受賞となりました。

【IEC1906賞について】

国際電気標準会議（IEC）は、電気及び電子技術分野の国際規格の作成を行う国際標準化機関で、100以上の分野に分かれ、世界中から20,000人を超えるエキスパートが規格策定に向けた活動を行なっています。IEC1906賞は、2006年に1906年の創立から100周年を迎えることを記念して、IECの技術活動に関連した電気・電子技術の標準化及びその関連活動に多大な貢献があった個別技術専門委員会の専門家（個別の技術委員会に参加し貢献している人）の業績を称えるものです。本年度は日本からは36名が表彰の対象となりました。

【活動における功績】

国際標準化活動は、ルール形成の一環であると同時に、産業界にとっては市場形成及び環境整備の手段の一つとして国際的に認識されています。日本においても「標準化人材を育成する3つのアクションプラン」（2017年1月策定）等の中で、国際標準化活動を支える人材の育成が重要な施策の一つとして挙げられています。山内教授は、2012年にIECにて発足した有機EL照明の技術委員会に当初から参加しており、2017年からはコンビナー（議長）として、委員会自体が円滑に進捗するように主導し、これまでに6件の国際規格の成立に貢献してきました。そのうちの3件は、日本からの提案です。日本からの提案規格については、プロジェクトリーダーとして、その提案規格が成立するように中心的役割を果たしています。また、現在では成立した規格の整備も重要な活動の一つとなっており、成立した全規格の追補の検討を主導しています。以上のような10年以上にわたるIECでの一連の活動が評価され、この度の受賞へと至りました。

【今後の展望】

有機EL照明の普及は、まだ今後の課題となっています。市場への普及や残課題の解決に向け、さらに日本の技術力がきちんと評価される規格づくりができるよう、今後も努力していきます。

お問い合わせ

学術研究院教授（視覚情報処理）山内 泰樹

TEL 0238-26-3346

メール yamauchi@yz.yamagata-u.ac.jp

令和4年（2022年）11月10日

ニホンザル個体群間の「つながり」を示したマップを公開 ～ニホンザルによる被害拡大の予防と個体群の適正保護の両立に向けて～

【本件のポイント】

- サルによる農業・生活被害が各地で拡大する一方で、どこで、こういった強度の管理捕獲^(注1)を実施すべきかについて、現場で混乱が生じてきた。
- 全国に分布する約2300のサルの群れ（総群れ数の約7割）の行動圏^(注2)データを集積・解析することで、サルの個体群^(注3)間の「つながり（＝生息地の連結性）」を示すマップを構築した。
- このマップにより、「被害予防のために積極的な管理が可能な地域」と「保護に配慮が必要な地域」の判断を支援することができ、各自治体による科学的な管理事業の推進に寄与できる。



【概要】

ニホンザルによる農業・生活被害が深刻な社会問題として認識され、各地で捕獲事業が推進されてきた。個体群の絶滅リスクを高めずに、さらなる被害拡大を予防していくためには、個体群の計画的な管理捕獲が必要とされる。しかし、各自治体が利用可能な、捕獲事業の適正化に資する指針はこれまで限られていた。そこで、日本哺乳類学会・ニホンザル保護管理検討作業部会（部会長 [当時]：江成広斗 山形大学・教授）が中心となり、計11の教育研究機関と実務組織* からなる合同チームにより、ニホンザルの群れの行動圏データを全国から網羅的に収集し（計2288群＝全国の総群れ数の約7割）、景観解析（最小コストパス解析^(注4)）により、各地の個体群間の「つながり（生息地の連結性）」の強度を示すマップを作製した。このマップにより、「被害予防のために積極的な個体群管理が可能な地域（＝つながりが強固な地域）」と「保護に配慮が必要な地域（＝つながりが脆弱な地域）」の判断を支援でき、各自治体による科学的な管理事業の推進に寄与することが期待される。

【掲載雑誌】 *Conservation Science and Practice*（北米に拠点がある保全生物学会が発刊する国際誌）

* 山形大学・野生動物保護管理事務所・東北野生動物保護管理センター・兵庫県立大学・自然環境研究センター・里地里山問題研究所・石巻専修大学・神戸大学・富山県自然博物館ねいの里・信州大学・石川県立大学

【背景】

戦前にみられた大規模な森林破壊や乱獲に伴い、ニホンザルの分布は大きく縮小した。戦後、狩猟が禁止され、生息地となる森林が回復していくと、ニホンザルの分布は徐々に拡大していく。ニホンザルの分布拡大は、個体群の保護の側面から評価できるものの、農業被害や生活被害（人身事故を含む）へとつながり、人とニホンザルとの軋轢は深刻化していく。軋轢の深刻化を受け、捕獲を重視する被害対策は各地で進められ、環境省・農水省が2014年に示した加害群（被害を発生させる群れ）の半減方針も後押しとなり、過去に例のない大規模な捕獲が各地で実施されている。

さらなる分布拡大に伴う軋轢の広域化を未然に防止するために管理捕獲が必要とされるケースは少なくない。しかし、非計画的（場当たりの）な捕獲事業は個体群の絶滅リスクを高める可能性がある。個体群の絶滅リスクを高めないためには、少なくとも隣接する個体群間のつながり（生息地の連結性）を維持することが求められるが、そのための指針はこれまで示されてこなかった。そこで、日本哺乳類学会・ニホンザル保護管理検討作業部会（部会長 [当時]：江成広斗 山形大学・教授）が中心となり、各個体群間の「つながり＝生息地の連結性」を可視化するための全国規模の解析を試みた。

【研究手法・研究成果】

個体群間のつながり（生息地の連結性）は、「隣接する個体群間がどれだけ地理的に離れているか」だけでなく、隣接する個体群間に存在する生息地の質（森林環境や気象条件）にも依存する。そこで、個体群間のつながりに影

お問い合わせ

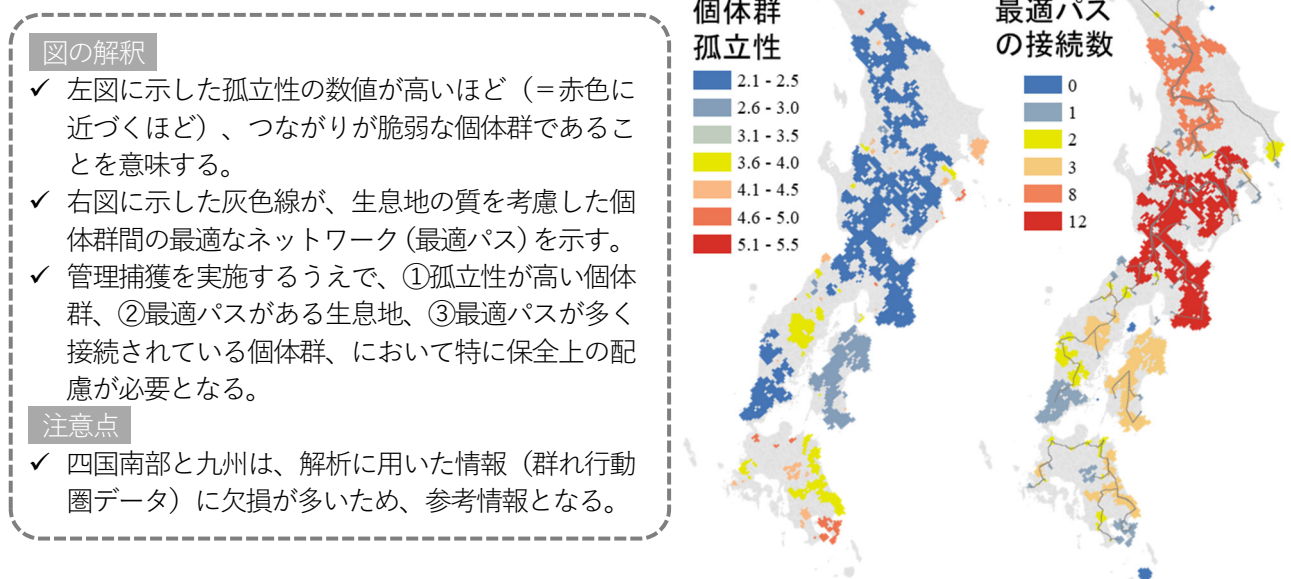
学術研究院教授 江成 広斗（森林動物管理学/農学部担当）

TEL 0235-28-2925 メール enari@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

響しうる「生息地の質」を全国規模で評価するために、全国各地から 2288 のサル群れ（環境省が公表した 2010 年時点の総群れ数の約 7 割に相当）の行動圏データを収集し、生息地モデルを構築した。この生息地モデルをもとに、既存の個体群間のつながり（生息地の連結性）を「最小コストパス解析」と呼ばれる景観解析により地図化した。あわせて、既存の個体群間のつながりを効率的に維持するために考えられうる最適なネットワーク（最適なパス＝移動・分散^{注5}のための通路）も可視化した（手法は最小スパニングツリー）。これらを用いることで、「被害予防のために積極的な個体群管理が可能な地域（＝つながりが強固な個体群、最適なネットワークのパスがない地域）」と「保護に配慮すべき地域（＝つながりが脆弱な個体群、最適なネットワークのパスがある地域）」の判断を支援することができる。

図. ニホンザル個体群のつながりの強度と、個体群間を効率的に連結させるための最適なネットワーク



【今後の展望】

「どこで、こういった強度の管理捕獲を実施すべきか」は、これまで各自治体の判断に任されてきた。本成果を活用することで、一つの科学的エビデンスを付加した判断が可能になり、計画性のある管理捕獲の推進に寄与できる。本成果を、各自治体のサル管理方針を定める「特定鳥獣管理計画」に活用していただくために、今後は上記の学会部会と環境省との間で議論の場を持つことで、社会実装の可能性を検討していく予定である。

※掲載論文の詳細

- ✓ **論文タイトル**：Optimizing habitat connectivity among macaque populations in modern Japan
- ✓ **掲載誌**：Conservation Science and Practice ※北米に拠点がある保全生物学会が発行する国際誌
- ✓ **著者一覧**：江成広斗（山形大学）、清野紘典（株式会社 野生動物保護管理事務所）、宇野壮春（合同会社 東北野生動物保護管理センター）、森光由樹（兵庫県立大学）、滝口正明（一般財団法人 自然環境研究センター）、鈴木克哉（特定非営利法人 里地里山問題研究所）、辻 大和（石巻専修大学）、山端直人（兵庫県立大学）、清野未恵子（神戸大学）、赤座久明（富山県自然博物館ねいの里）、泉山茂之（信州大学）、大井 徹（石川県立大学）、海老原寛（株式会社 野生動物保護管理事務所）、三木清雅（株式会社 野生動物保護管理事務所）、藏元武藏（株式会社 野生動物保護管理事務所）、江成はるか（山形大学）

※用語解説

- 注1. 管理捕獲：県が定める計画（特定鳥獣管理計画）にもとづく個体数調整を目的とした捕獲
- 注2. 行動圏：対象とする動物が日常的に利用する範囲
- 注3. 個体群：ある空間に分布する同じ生物種の集まりを指す。個体群内の個体は繁殖等により個体間相互に直接的・間接的なつながりをもっている。ニホンザルにおける個体群は必ずしも明確に定義されておらず、本研究では各地にみられるニホンザル分布の集合（クラスター）を便宜的に個体群と記載した。
- 注4. 最小コストパス解析：①動物の移動・分散を阻害する抵抗（具体的には土地利用・森林タイプ・地形・気象条件に由来する移動・分散コスト）と、（2）地理的な距離、の2つから、隣接する個体群間の連結性を評価するための景観生態学的な解析手法
- 注5. 移動・分散：行動圏内で利用地域を季節的に変える動物の動きを「移動」、出生地から行動圏を移出する一方向的な動きを「分散」と呼び、移動・分散によって個体群間につながりが発生する。

ニホンザル個体群間のつながりを 示したマップを公開

～ ニホンザルによる被害拡大の予防と
個体群の適正保護の両立に向けて ～

発表者：江成広斗（山形大学 学術研究院 教授/農学部担当）

掲載誌：Conservation Science and Practice

タイトル：Optimizing habitat connectivity among macaque populations in modern Japan

著者一覧：江成広斗^{a*}、清野紘典^b、宇野壮春^c、森光由樹^d、滝口正明^e、鈴木克哉^f、
辻 大和^g、山端直人^d、清野未恵子^h、赤座久明ⁱ、泉山茂之^j、大井 徹^k、海老原寛^b、
三木清雅^b、藏元武藏^b、江成はるか^a

^a山形大学、^b(株) 野生動物保護管理事務所、^c(同) 東北野生動物保護管理センター、
^d兵庫県立大学、^e(一財) 自然環境研究センター、^f(特非) 里地里山問題研究所、
^g石巻専修大学、^h神戸大学、ⁱ富山県自然博物館ねいの里、^j信州大学、^k石川県立大学
* 筆頭著者・責任著者

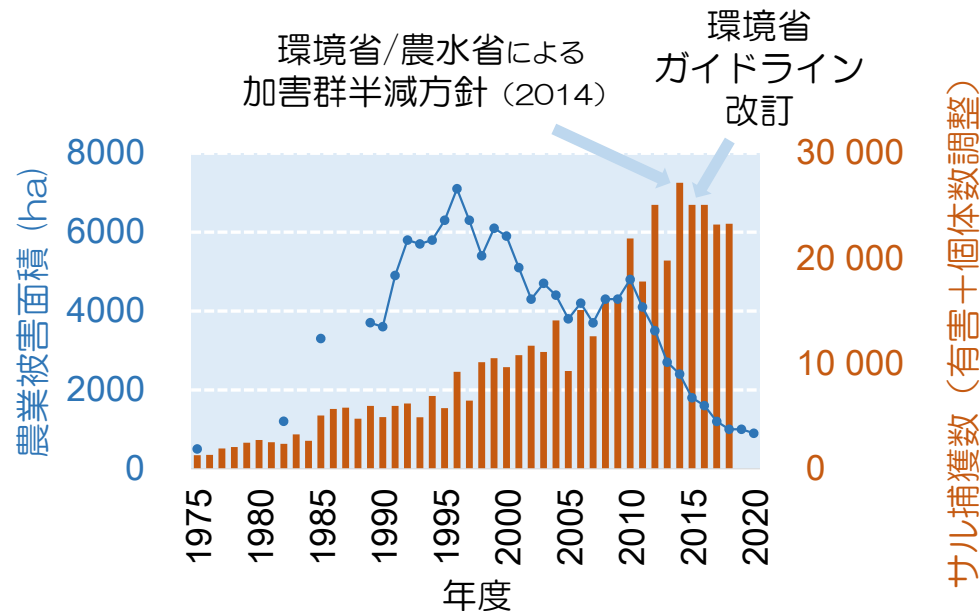
なぜ個体群のつながりに注目？

まずは問題の共有から



2

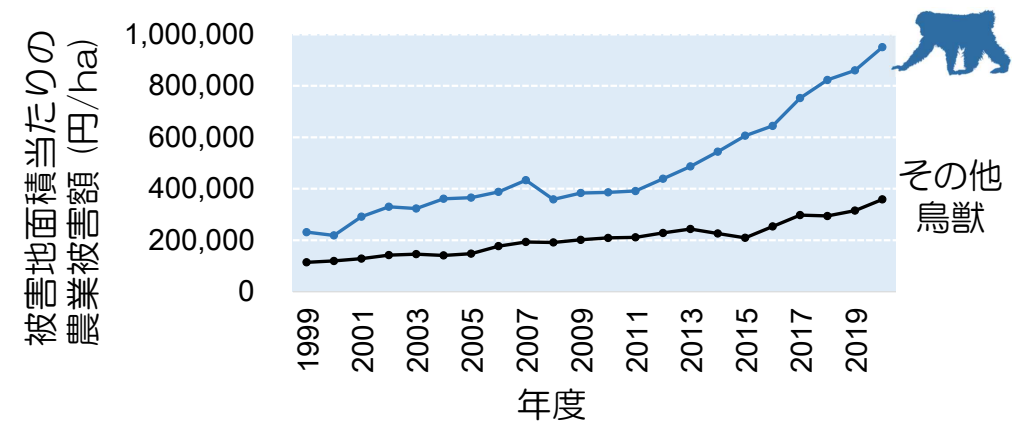
サル捕獲数・被害面積の年次変化



※被害額は農水省、捕獲数（2018年まで）は環境省データ

3

減少する農業被害面積が意味するもの



「その他鳥獣」とは異なり、残された農地に対する
被害額は顕著に増加 ⇒ 過去20年間で **>3倍**
※生産性の高い農地における被害拡大

4

サル捕獲方法の変化

全国の市町村で**囲い罠**を使用
25市町村（2009年段階）
⇒119市町村（2017年段階）



多頭捕獲のための**大型箱罠**を使用
37市町村（2009年段階）
⇒174市町村（2017年段階）



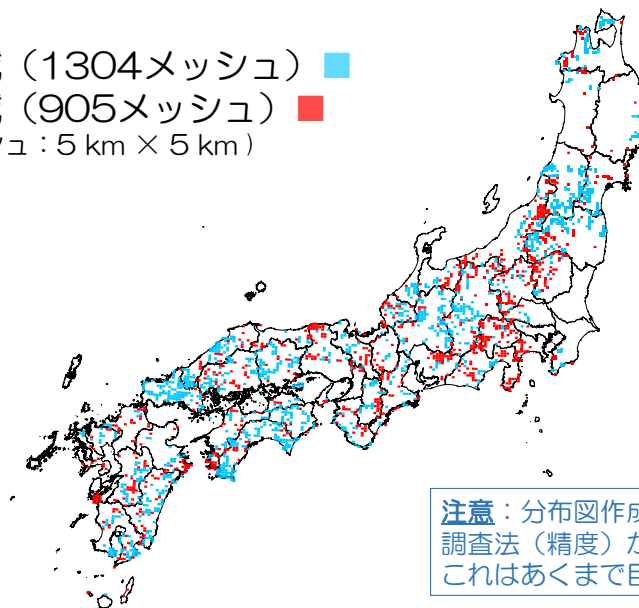
ともに**5倍**に増加

※サル捕獲を実施している市町村総数=411（2017年）

（江成ほか2015〔哺乳類科学55巻43-52〕と環境省公表値の比較より）⁵

サル分布の経時的変化

拡大地域（1304メッシュ） ■
消失地域（905メッシュ） ■
（※メッシュ：5 km × 5 km）



注意：分布図作成のための調査法（精度）が異なるため、これはあくまで目安

図. 2003年から2017年にかけてのサル分布の拡大地域と消失地域

6

サル管理に関わる懸念と問題解決に向けた試み

- 「捕獲技術普及 ⇒捕獲数増加 ⇒分布消失」という昨今の流れは、**良い傾向とみなせるのか、もしくは保全上の問題があるのか判断できない地域も少なくない。**
- 生活被害予防のために捕獲圧を高めるべき地域もあるはず。**「どこでどのように高めてよいのか」について指針がない。**

日本哺乳類学会・二ホンザル保護管理検討作業部会
（部会長〔当時〕：江成広斗）
※11の教育・研究・実務組織との連携で対応を検討

「被害予防のために積極的な管理が可能な地域」と
「保護に配慮が必要な地域」を**色分け**する

7

なぜ個体群のつながりの評価が必要か？

- 昨今の異常気象頻度の増加などに伴い、保全上、最低限維持すべき個体群サイズが**不明**
- 個体群の絶滅リスクを高めないためには、少なくとも**隣接する個体群間のつながり（生息地の連結性）を維持すべき**



図. 2017年現在のサル分布
（環境省公表データ）

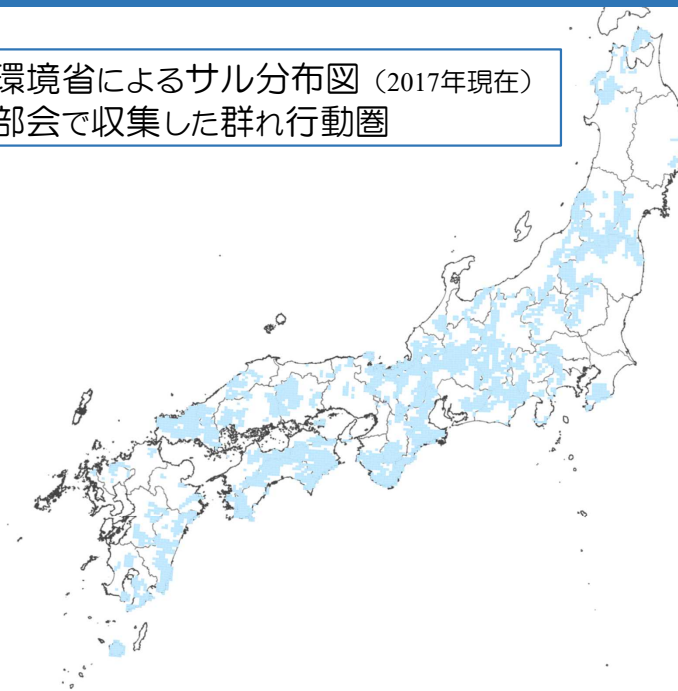
8

景観解析「最小コストパス解析」によるつながりの評価

- 個体群間の連結性は、個体群間の「地理的距離」だけでなく、そこに存在する「生息地の質」にも影響
- 「生息地の質」を評価するために、サル部会では全国から2288群（環境省による総群れ数推定値の約7割）の行動圏データを収集し、全国規模で生息地モデルを構築（GAMによる）
- 生息地モデルから予測される「個体群間の生息地の質」から、各個体群間のつながり（連結性）を予測
- 最小スパニングツリーを用いて、個体群間のつながりを効率的に維持するために考えうる最適なネットワークも可視化

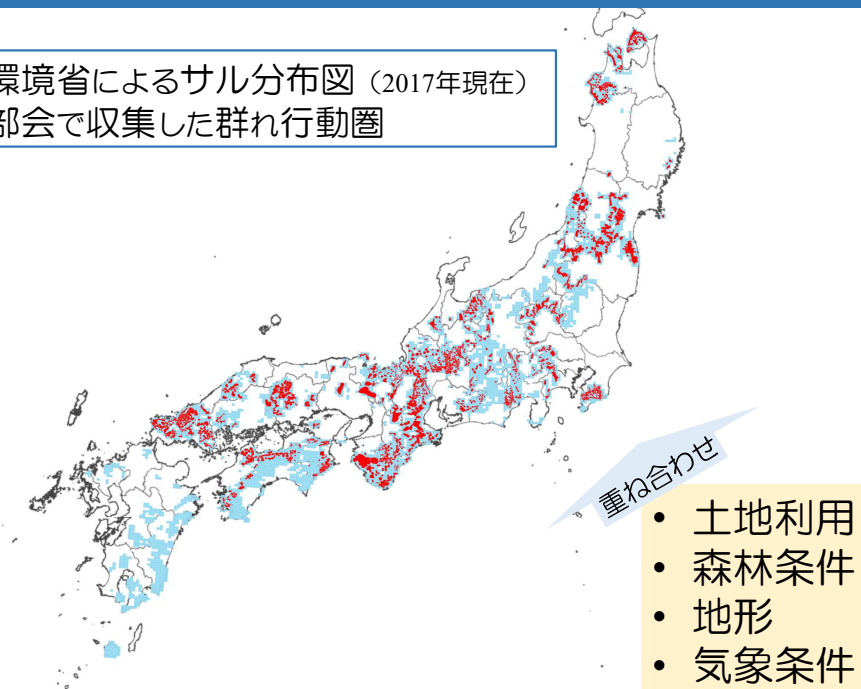
9

水色：環境省によるサル分布図（2017年現在）
赤色：部会で収集した群れ行動圏



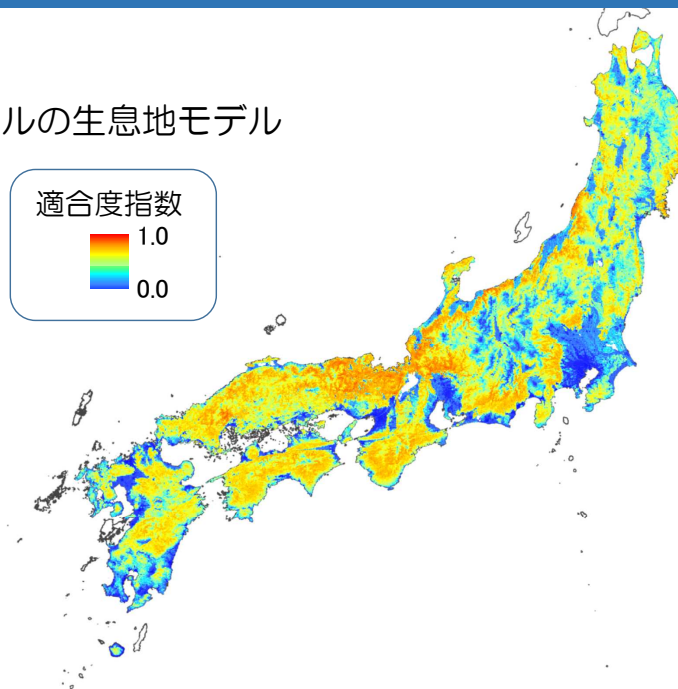
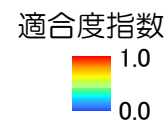
10

水色：環境省によるサル分布図（2017年現在）
赤色：部会で収集した群れ行動圏



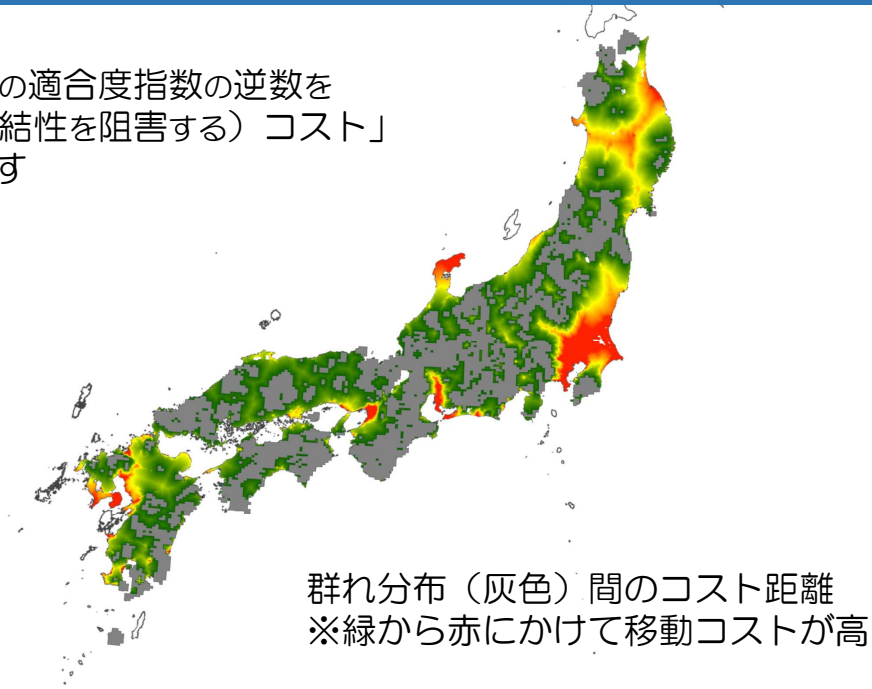
11

サルの生息地モデル



12

生息地の適合度指数の逆数を
「（連結性を阻害する）コスト」とみなす



13

【 解 釈 】

- 左図で孤立性の数値が高い（赤色）ほど、つながりが脆弱な個体群。
- 右図の灰色線が個体群間の最適パス
- 管理捕獲を実施するうえで、
①孤立性が高い個体群
②最適パスがある生息地
③最適パスの接続数が多い個体群
において特に保全上の配慮が必要

【 注 意 点 】

- 四国南部/九州は、解析に用いた情報に欠損が多いため、参考情報となる

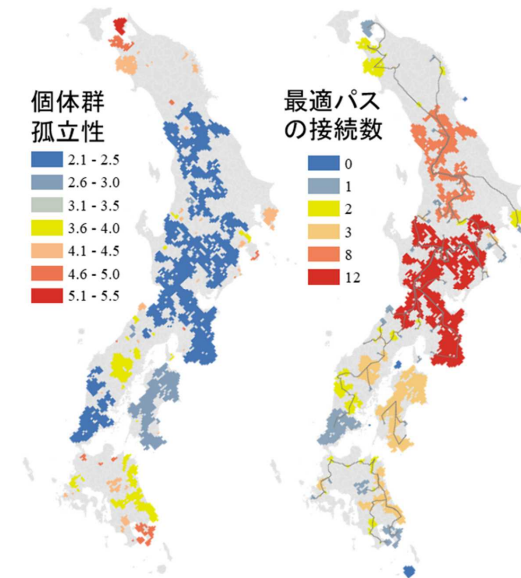


図. 個体群のつながりの強度と、個体群間を効率的に連結させるための最適ネットワーク（＝最適パス）

14

令和4年（2022年）11月 10日

イノベーション教育学会が「第10回年次大会」を山形大学で開催 ～「ソーシャルイノベーション人材育成」をテーマに～

【本件のポイント】

- イノベーション教育プログラムを対象として、その質の向上を目的とした研究活動の必要性について、先端的なイノベーション教育プログラムを提供する「イノベーション教育学会」が2013年に発足。
- 「イノベーション教育学会」の「第10回年次大会」を、2022年11月12日（土）及び13日（日）に山形大学で開催。
- 部会セッションやインターアクションセッション、フューチャーセッション等の開催により、発表者と参加者の相互の活発な情報交換を行う。



【概要】

本学国際事業化研究センターでは、2017年度から5年間、早稲田大学、東京理科大学、多摩美術大及び滋賀医科大学とのコンソーシアムにより文部科学省「次世代アントレプレナーシップ育成事業（EDGE-NEXT）」の採択を受けて、アントレプレナーシップ教育を本格的に実施し、その間、「イノベーション教育学会」に部会研究や年次大会での部会セッション等を通じて深く関わってきました。

この度、「EDGE-NEXT」の成果を引き継ぎ、アントレプレナーシップ教育を全学的に進めるための組織として2022年4月1日付けで設立した「アントレプレナーシップ開発センター」が幹事校となり、「ソーシャルイノベーション人材育成」をテーマに、イノベーション教育の研究成果や実践的教育事例を発表し、研究者・学生間でのイノベーション教育に関する実践知や理論的考察を共有するとともに、互いにフィードバックを行うことで、今後の教育プログラムの質の向上を図ることを目的とする「イノベーション教育学会」の「第10回年次大会」を開催します。

山形大学小白川キャンパス 人文社会科学部1号館3階301教室を会場に、2022年11月12日（土）及び13日（日）の2日間の日程で、対面・オンラインの併用によるハイブリッド開催をします。

1日目は、山形県総務部長・小林剛也氏とForbes JAPAN Web 編集部編集長・谷本有香氏による「基調講演」と、研究、高校教育、政策共創の3部会による「部会セッション」を行います。

2日目は、発表内容を1分間の紹介動画で放映する「ライトニングトーク」を行った後に、従来のポスターセッションにあたる「インターアクションセッション」を行います。更に「フューチャーセッション」として、ソーシャルイノベーションを生み出す人材育成に実績がある著名人の方々をお招きし、パネルディスカッションを行います。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【年次大会概要】

<期日>2022 年 11 月 12 日（土）13:00～18:30

※懇親会 18:45～20:15

11 月 13 日（日）10:00～15:40

<会場>山形大学小白川キャンパス

人文社会科学部 1 号館 3 階 301 教室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目 4-12



〔小白川キャンパスマップ〕

<費用>一般早期申込 1,800 円 ※10 月 25 日（火）まで

一般当日申込 2,000 円

学生申込 無料

交流会 3,000 円（対面のみ） ※当日集金

<申込締め切り>参加申込 10 月 25 日（火） ※一般早期申込

インターラクティブセッション参加申込 11 月 7 日（月）12:00

<申込先 URL>年次大会 <https://inno.education/2006/>

インターラクティブセッション <https://inno.education/2011/>

【開催要項】

<11月12日（土）>

（時間）	（項目）
12:15～	受付開始
13:00～13:10	開会挨拶（山形大学理事 飯塚博）
13:10～13:30	山形大学のアントレプレナーシップ教育 山形大学アントレプレナーシップ開発センター長 小野寺 忠司
13:30～14:20	基調講演 「演題（未 定）」 小林剛也 山形県総務部長
	休憩
14:30～15:20	基調講演 「演題（未 定）」 谷本有香 Forbes JAPAN Web 編集部編集長
	休憩
15:30～16:20	分科会発表 研究部会
	休憩
16:30～17:20	分科会発表 高校教育部会
	休憩
17:30～18:20	分科会発表 政策共創部会
18:20～18:30	諸連絡・初日閉会
18:45～20:15	懇親会（山形大学厚生会館）

<11月13日（日）>

（時間）	（項目）
10:00～	ポスター受付
10:20～10:50	ライトニングトーク （ポスター発表者による 1 分間のショートプレゼンテーション）
11:00～12:00	インターラクティブセッション
12:00～13:00	昼食
13:00～15:00	フューチャーセッション 「ソーシャルイノベーションを生み出す人材教育とは・・・」 ○スピーカー： ①NPO 法人アスヘノキボウ代表、株式会社 Venture For Japan 代表 小松洋介 ②山形大学客員准教授、山梨県立大学・特任准教授、シナプテック株式会社代表取締役 戸田達昭 ③e-lab. マネージングディレクター 谷川 徹 ④早稲田大学 島岡未来子 ⑤山形大学卓越教授 城戸淳二 ○ファシリテーター： 山形大学アントレプレナーシップ開発センター長 小野寺忠司
	休憩
15:10～15:30	ベストポスター賞発表と表彰
15:30～15:40	閉会挨拶（山形大学長 玉手英利）

以上

お問い合わせ

山形大学アントレプレナーシップ開発センター 丸尾、安房

TEL 023-628-4075 メール maruo@cc.yamagata-u.ac.jp

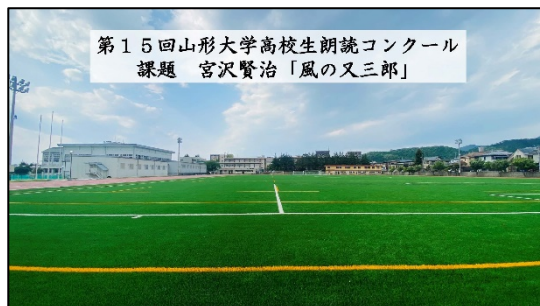
令和4年（2022年）11月10日

宮沢賢治の名作 東北6県の高校生 朗読を競う

～第15回山形大学高校生朗読コンクール審査結果発表～

【本件のポイント】

- 第15回山形大学高校生朗読コンクールの審査結果を発表します。
- 本選出場者15名の中から、1位(同点2名)・3位(同点2名)を山形大学学長賞として選出しました。
- 本選の様子は、山形大学公式YouTubeチャンネルにより一般公開します。



【概要】

山形大学は地域社会との連携をより深める事を目的に、東北6県の高校生の文化交流を支援するため、第15回山形大学高校生朗読コンクールを開催しました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、録音による審査によって開催しました。東北6県の高校13校48名の高校生により競われた予選審査を通過し、本選に出場した15名の高校生は岩手県出身の宮沢賢治の名作「風の又三郎」をリレー形式で朗読しました。1位(同点2名)・3位(同点2名)を山形大学学長賞として選出しました。他の本選出場者も入選として表彰しました。

本選の様子は、令和4年11月10日（木）から山形大学公式YouTubeチャンネルにより一般公開します。

なお、本コンクールの企画運営は基盤共通教育「イベントマネジメントとプレゼンでみがく社会人基礎力」（担当教員：山本陽史）の受講学生が行い、YouTubeの動画撮影・編集は山形大学放送研究会の学生に御協力いただき開催いたしました。

【審査結果】

《 山形大学学長賞 》

第1位 菅井 実理

聖ウルスラ学院英智高等学校

第1位 千葉 薫子

宮城県仙台三桜高等学校

第3位 輕部 花れん

山形県立山形西高等学校

第3位 元木 亜弥菜

山形学院高等学校

《 入 選 》

會田 涼花 山形県立山形西高等学校

齋藤 せり 聖ウルスラ学院英智高等学校

浅野目 真緒 山形県立山形西高等学校

七戸 菜々子 宮城県名取高等学校

安達 奈々美 山形県立寒河江高等学校

水野 利英 宮城県仙台三桜高等学校

奥山 南美 山形学院高等学校

渡部 美聖 山形県立酒田東高等学校

加福 尚央 青森県立五所川原高等学校

渡部 優 山形県立高畠高等学校

齋藤 愛華 山形県立山形西高等学校

(敬称略・入選者は氏名の五十音順に記載)

【山形大学公式YouTubeチャンネル】

第15回山形大学高校生朗読コンクール < <https://youtu.be/koj77gA-kws> >



本件お問合せ

山形大学高校生朗読コンクール事務局（担当：川原）

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL：023-628-4844 メール yu-k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和4年（2022年）11月10日

第50回山形大学模擬裁判公演のお知らせ ～「法律の狭間」の存在、ヤングケアラーの“声”とは～

【本件のポイント】

- 第50回目の節目となる今年の模擬裁判公演のテーマは「ヤングケアラー」です。これまで、潜在的で見えない存在とされてきたとともに、私たち学生と同世代の問題であるヤングケアラーにスポットをあてました。
- 今回は、原則非公開で審理されている「少年審判」を取り扱います。法や裁判と「若者」の関係についても考えて頂くことのできる脚本となっています。
- 1年生から3年生の学生約80人が参加し、1年がかりで作り上げる迫力の公演とその取り組みにご注目ください。



↑ 脚本を用いた演者の練習風景

【概要】

山形大学模擬裁判実行委員会は、年に1度「模擬裁判」という裁判劇の公演を発表し、研究成果を地域の皆様に還元しています。節目となる50周年の今年は、「ヤングケアラー」をテーマに公演を行います。

ヤングケアラーとは一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行なっている子どものことを指しますが(厚生労働省)、法令上の定義はありません。法制度や支援制度のない「法律の狭間」の存在とされてきたヤングケアラーの実態について、私たちと一緒に知って頂ければと思います。

今年は、事件発生の経緯や主人公の心情といった繊細な描写を数多く含めています。また、通常の刑事事件と異なる「少年審判」を通して、主人公はどのように自身と向き合っていくのかにもぜひ注目していただきたいです。

【模擬裁判とは】

山形大学模擬裁判実行委員会は、山形大学の1年生から3年生を中心に構成される学生の自主ゼミです。年に一度の模擬裁判という裁判劇の公演で研究成果を発表しています。裁判劇を市民の皆様に観ていただくことで、法律を身近に感じ、その時代が抱える社会問題について考えていただくきっかけを作ることを目的としています。

【あらすじ】

主人公は、高校3年生の少女の舞。ある日、認知症で要介護状態の進んだ祖母のケアに耐えきれず、少女は祖母に手をかけてしまいます。この少女のようなヤングケアラーは、本当に家族だけの問題なのでしょうか。家庭と学校、大人と子ども、法律の狭間で揺れ動く「少年たち」に対して、社会はどう手を差し伸べることが出来るでしょうか。誰か、その『声』に気づけますか？

【公演内容】第50回模擬裁判公演『care-誰かその“声”に気づけますか-』

日時：2022年12月9日(金) 18:00開演、12月10日(土) 14:00開演

場所：山形テルサ テルサホール

料金：前売り券300円／当日券400円（高校生以下は無料）

チケット販売：山形大学生協／八文字屋プレイガイド

※キャスト練習や本番に向けた活動を可能な限り公開させていただきます。

ご関心のある報道機関の皆様は当団体委員長 佐々木までご連絡ください。



【山形大学模擬裁判実行委員会 公式ホームページ】

<https://yamadai-mogisai.jimdofree.com/>

予告動画公開中！⇒



お問い合わせ

山形大学模擬裁判実行委員会 委員長 佐々木 裕紀 (sassa2175@gmail.com)

第50回模擬裁判公演

care

誰かその“声”に気づけますか

2022年

12月9日(金)

開場 17:30

開演 18:00

12月10日(土)

開場 13:30

開演 14:00

主催
山形大学模擬裁判実行委員会

協賛
ふすま同意会・山形大学校友会

後援

朝日新聞山形総局

NHK山形放送局

株式会社エヌエム山形

株式会社さくらんぼテレビジョン

株式会社テレビユー山形

株式会社山形テレビ

河北新報社

山形県教育委員会

山形市教育委員会

山形県弁護士会

株式会社ダイバーシティメディア

山形コミュニティ放送

山形県

山形市

山形新聞・山形放送

山形地方検察庁

山形地方裁判所

毎日新聞山形支局

読売新聞山形支局

東北大学模擬裁判実行委員会

16じおかえ
なす
進路調査票

会場

山形テルサ
テルサホール

入場料金

前売り券 300円

当日券 400円

高校生以下無料

チケット取り扱い

山形大学生協/八文字屋本店プレイガイド

HP

<http://yamadai-mogisai.jimdofree.com/>

主人公は、高校3年生の少女の**舞**。
彼女は、幼いころから祖母と母親の3人暮らし。
母親は長い時間働きに出ていましたが、
幼い頃は、家族仲も良好で平和な家庭でした。

しかし、祖母が認知症で要介護状態が進んでいくにつれ、
少女は祖母のケアを担うことになります。
ケアに時間を取られてしまうため、
友人関係や進路でも悩みを抱えることに。

ついにある日、祖母のケアに耐えきれずに、
少女は祖母に手をかけてしまいます。
登場人物Aはこう語る、
『』。

この少女のような**ヤングケアラー**は、
本当に家庭内だけの問題なのでしょうか――。

家庭と学校、大人と子ども、法律の狭間で揺れ動く「少年たち」に対して、
社会はどう手を差し伸べることが出来るのでしょうか――。
誰か、その『**声**』に気づけますか――？

50回模擬裁判公演における感染症対策について

今回は、感染症対策の目的である「感染者を出さない・感染を拡大させない」ことを達成するためにご来場のお客様に、以下の対策の実施をお願い致します。

【ご来場前に】

公演当日、下記の体調不良をお感じの方は、ご来場をお控え頂きますようお願い致します

▶発熱、咳、呼吸困難、全身の倦怠感、のどの痛み、鼻水・鼻づまり、味覚・嗅覚の異常、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節痛・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐の症状

【当日会場にて】

- ・会場入り口にて検温を実施させて頂きます。37.5℃以上の熱がある方は、入場をお断りし、チケット代金を払い戻しさせて頂きます
- ・会場では常時マスクの着用が必要となります。また、手洗いの徹底と消毒液のご利用をお願い致します
- ・お手洗いにはご自身のハンカチをご持参下さい
- ・お客様同士の間隔を十分に保てるよう、ご協力とご配慮をお願い致します
- ・開場時と休憩時には、入場口や客席扉を開け、換気をさせて頂きます
- ・換気により会場内の冷暖房効果が損なわれる恐れがございますので、お客様ご自身で 体温調整のできる服装でお越し下さいますようお願い致します
- ・感染症対策として、ご来場のお客様へ、有事に限り、保健所等の関係者機関へ情報提供させて頂くことを伝えた上で、連絡先の記入をお願い致します。ご記入頂いた情報は、1ヶ月間保存し、その後破棄します
- ・配布物等に関してはお客様ご自身でお取り頂くようお願いいたします

令和4年(2022年)11月10日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学農学部「研究シーズ集」最新版を刊行しました

農学部では、日頃の研究活動で得られた研究成果・技術を地域に積極的に発信し、新たな技術や事業の創出に寄与することを目的に「山形大学農学部研究シーズ集」の最新版（前は2020年9月に発行）を刊行しました。

2. 「鎌倉殿とほか3人―大河ドラマに便乗展―」～重要文化財「中条家文書」から鎌倉幕府黎明期の古文書を展示中～

本年はNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」やアニメ「平家物語」など、平安時代末から鎌倉時代を扱った創作物が注目を集めています。本館でもこれらに便乗し、ドラマなどをきっかけに歴史に興味を持った方々の一層の興味関心を引き出し、「中条家文書」の魅力を広めることを目的とし本展を企画しました。

山形大学中央図書館所蔵「中条家文書」から貴重な古文書5点を山形大学附属博物館にて展示中で、5点のうち2点は源頼朝が征夷大將軍に就任した時期の貴重な政所下文です。

11月25日(金)に本展を監修した大喜直彦教授によるギャラリートークを行います。

また、本展にあわせて、タイアップ企画としてギャラリートークの後に、健康と学びのサポートセンター公開セミナー「失ってほしくない日本の文化性―消滅危惧武道用語―」が行われます。

3. 山形大学チャットボットキャラクター愛称決定～学生サービス向上にデジタルトランスフォーメーション活用～

山形大学は、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）推進の一環として、学生等へのサービスの向上と職員の業務効率化を目的に、2022年6月から公式ホームページにAIチャットボットを設置しています。

この度、本チャットボットの愛称を募集した結果、愛称の応募総数は93件（うち学生から70件、教職員から23件）あり、大学院理工学研究科の有我祐一先生考案の「おがるん」に決定しました。



令和4年（2022年）11月10日

山形大学農学部「研究シーズ集」最新版を刊行しました

【本件のポイント】

- 農学部教員の研究内容について、企業・団体等との共同研究や地域社会との連携を念頭に置いて、写真や図を使いながらわかりやすく説明しています。
- これまでの研究シーズ集は教員紹介のための資料を兼ねていましたが、今回の最新版では以下の通り「シーズ集」としての機能を高めました。
 - それぞれの研究シーズが「どのような共同研究・連携に結び付けられるのか？」について、教員からの具体的なメッセージを載せています。
 - 意欲的な教員のために、1人の教員が複数の研究シーズ（最大で3つまで）を紹介できるようにしました。
 - 企業や社会のSDGsを目指した取組に貢献できるように、それぞれの研究シーズに関連するSDGsを掲載しました。



【概要】

農学部では、日頃の研究活動で得られた研究成果・技術を地域に積極的に発信し、新たな技術や事業の創出に寄与することを目的に「山形大学農学部研究シーズ集」の最新版（前回は2020年9月に発行）を刊行しました。農学部教員がどのような研究活動を行い、それら研究の成果を活かしてどのような地域貢献ができるのかを分かりやすく表現しています。共同研究や技術相談、講演・セミナー、各種委員会の委員選定、地域の課題解決等の参考資料として、ぜひご活用ください。

農学部では、ここに掲載されている研究シーズのいくつかを取り上げ、担当教員がその詳細を紹介して、共同研究のアイデアを交換する「研究シーズ説明会」も定期的開催しています。次回の開催は、本年11月下旬頃の予定です。こちらにもぜひご参加ください。

【掲載内容】

農学部教員（全65名）の研究シーズ（全70件）を紹介しています。農学部らしい食料生産や食品開発・加工、食品の栄養や機能性の評価に関わる技術だけでなく、環境保全や地域振興に役立つ研究シーズも掲載されています。

なお、本研究シーズ集の内容は、農学部ホームページ（<https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/seeds.html>）からご覧いただけます。本件に関するお問い合わせ、興味のある研究者とのマッチング等を希望される方は、下記までご連絡ください。

お問い合わせ

鶴岡キャンパス事務部総務課 研究・社会共創室
TEL 0235-28-2910 FAX 0235-28-2836
メール yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和4年（2022年）11月10日

「鎌倉殿とほか3人―大河ドラマに便乗展―」 ～重要文化財「中条家文書」から鎌倉幕府黎明期の古文書を展示中～

【本件のポイント】

- 山形大学中央図書館所蔵「中条家文書」から貴重な古文書5点を山形大学附属博物館で展示中。
- 5点のうち2点は源頼朝が征夷大將軍に就任した時期の貴重な政所下文です。
- 11月25日(金)に本展を監修した大喜直彦教授によるギャラリートークを行います。
- 本展にあわせて、タイアップ企画としてギャラリートークの後に、健康と学びのサポートセンター公開セミナー「失ってほしくない日本の文化性―消滅危惧武道用語―」が行われます。



【概要】

本年はNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」やアニメ「平家物語」など、平安時代末から鎌倉時代を扱った創作物が注目を集めています。本館でもこれらに便乗し、ドラマなどをきっかけに歴史に興味を持った方々の一層の興味関心を引き出し、「中条家文書」の魅力を広めることを目的とし本展を企画しました。

なお、展示以外にも古文書を詳しく解説するギャラリートークや、健康と学びのサポートセンターによる武道用語に関する公開セミナーを行いますので奮ってご参加ください。

【中条家文書】

山形大学が所蔵する「中条家文書」は、昭和47年(1972)に中条敦氏により本学に譲与されました。平成4年(1992)にはそのうちの233通が重要文化財に指定されています。

中条氏は相模国(神奈川県)三浦半島の有力者、和田一族を出自としています。中条家の祖・和田宗実(2代目鎌倉将軍源頼朝を支えるため作られた「十三人の合議制」のうちの一人、和田義盛の弟)です。鎌倉時代から連綿と続く名族であり、中条家に伝来した文書群は中世越後国の戦乱や土地支配・一族の相克を映し出す貴重な史料群となっています。

中条家文書の中で最も古い「鎌倉幕府将軍家政所下文」は、建久3年(1192)頼朝の意を受けて和田宗実を越後国(新潟県)奥山庄の地頭職に任命した文書と、同日付で出された相模国南深沢の地頭職を任じた文書です。これらは頼朝が征夷大將軍在職中の文書であり、原本を確認できる大変貴重な史料です。

【関連企画】

- ギャラリートーク「笑ってはいけない鎌倉時代」

講師：大喜直彦（山形大学学術研究院教授 地域教育文化学部担当）

日時：11月25日(金)13時00分～30分、18時00分～30分の2回開催

参加方法：現地・オンライン開催

お問い合わせ

研究情報部学術情報科 山形大学附属博物館（押野）

TEL 023-628-4903 メール yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

現地希望の方はフォームからのご予約ください。

《<https://forms.office.com/r/Ma767P57hk>》

Zoom 希望の方は以下のアドレス、または ID よりお入りください。

《<https://us04web.zoom.us/j/74888273753?pwd=t3a29GerLOKba0E4a3Qg6OkK2tKfdb.1>》

《ミーティング ID: 748 8827 3753》

《パスコード: Y0qKCQ》

●附属博物館イベントタイアップ企画

健康と学びのサポートセンター公開セミナー「失ってほしくない日本の文化性―消滅危惧武道用語―」

講 師：竹田隆一（山形大学名誉教授）

日 時：11 月 25 日(金)18 時 45 分～20 時 00 分

会 場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 1 号館 1 階 103 号室

参 加 費：無料

対 象：高校生以上

定 員：70 名

参加方法：11 月 20 日(日)までに申込フォームよりお申込みください。

《<https://www.y-cwb.jp/2022/10/post-20.html>》

会期

令和4年度山形大学附属博物館企画展

2022年10月11日(火)
～11月30日(水)

会場

山形大学附属博物館

開館時間 9時30分～17時

(ただし、10月28日(金)、11月25日(金)はギャラ
リートークのため19時閉館)

入館料 無料

休館日 土、日、祝日、11月15日(火)14時～、16日(水)、17日(木)

入館について 入口の入館者カードに必要事項をご記入のうえお入
りください。

状況によりイベントが延期・中止になる場合があります。
詳しくはホームページをご覧ください。

展示資料

山形大学中央図書館所蔵
重要文化財 中条家文書

- ・鎌倉将軍(源頼朝)家政所下文 / 建久3年10月21日
- ・鎌倉将軍(源頼朝)家政所下文 / 建久3年10月21日
- ・関東下知状 / 元久2年2月22日
- ・関東下知状 / 承久2年12月10日
- ・津村尼讓状 / 仁治2年4月17日

関連企画

ギャラリートーク 現地・オンライン (Zoom) 開催

大喜直彦 教授(山形大学地域教育文化学部)

による展示解説「笑ってはいけない鎌倉時代」

日 時: 10月28日(金)、11月25日(金)各日2回

昼の部: 11時00分～11時30分

夜の部: 18時00分～18時30分

現 地: 各回12名(要予約・下記アドレスよりお申込みくだ
さい。QRコードは裏面をご覧ください)

<https://forms.office.com/r/Ma767P57hk>

Zoom: 時間になりましたら下記 ID・パスコードよりお入
りください(QRコードは裏面をご覧ください)

ミーティング ID: 748 8827 3753

パスコード: Y0qKCQ

鎌倉殿とほか3人

大河ドラマに便乗展



お問合せ

山形大学附属博物館

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
TEL 023-628-4930 Fax 023-628-4668
E-mail: yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

アクセス

JR 山形駅前より「ベニちゃんバス東くるりん東原町
先回りコース」乗車「山大前」下車徒歩2分。
平日のみ山形大学専用駅循環シャトルバス運行。詳
しくは山形大学HPをご覧ください。

中条家文書とは

山形大学が所蔵する「中条家文書」は、1972年（昭和47）に中条敦氏により本学に譲与されました。1992年（平成4）にはそのうちの233通が重要文化財に指定されました。

中条氏は相模国三浦半島の有力者、和田一族を出自としています。鎌倉時代から連綿と続く名族であり、中条家に伝来した文書群は中世越後国の戦乱や土地支配・一族の相克を映し出す貴重な史料群となっています。

今年是大河ドラマやアニメーションなどで源平の合戦や鎌倉時代に注目が集まっています。当館ではこれに合わせ、普段見ることのできない鎌倉幕府黎明期の貴重な史料5点を展示します。ドラマなどをきっかけに歴史に興味を持った方々の一層の興味関心を引き出し、中条家文書の魅力を広めることを目的とする企画展です。

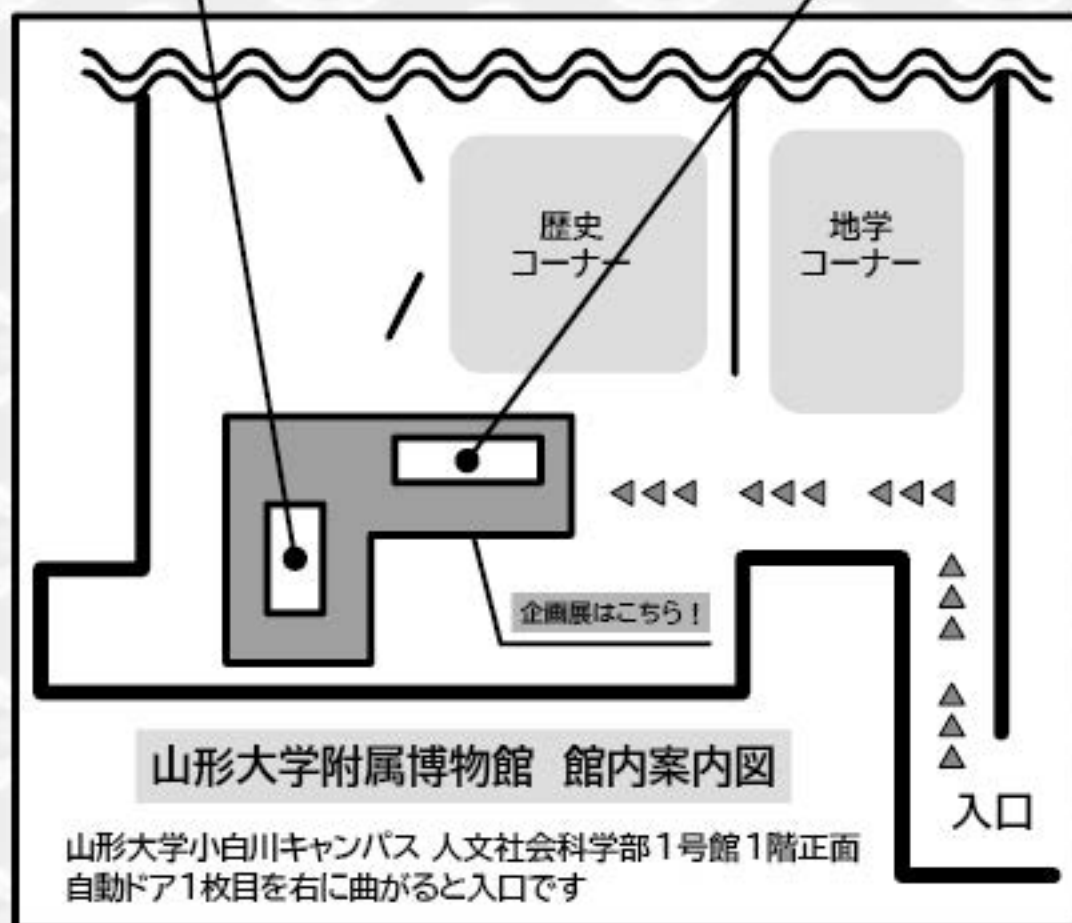
展示資料



関東下知状（元久2年2月22日）



鎌倉将軍（源頼朝）家政所下文（建久3年10月21日）



関連企画 QRコード

ギャラリートーク
(現地)申し込みフォーム



ギャラリートーク
Zoom 配信アドレス



お問合せ 山形大学附属博物館
〒990-8560 山形市小白川1-4-12
TEL 023-628-4930 Fax 023-628-4668
E-mail yu-hakukan@i.m.k.yamagata-u.ac.jp

令和4年（2022年）11月10日

山形大学チャットボットキャラクター愛称決定 ～学生サービス向上にデジタルトランスフォーメーション活用～

【本件のポイント】

- 山形大学チャットボット愛称の応募総数は93件（うち学生から70件、教職員から23件）あり、大学院理工学研究科の有我祐一先生の「おがるん」に決定しました。
- 山形大学チャットボット「おがるん」は、6月1日（水）の設置開始以来、約2万件の質問（10月25日時点）に回答しており、今後さらに学生等のサービス向上及び職員の業務量削減につながることが期待される。



【概要】

山形大学は、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）推進の一環として、学生等へのサービスの向上と職員の業務効率化を目的に、2022年6月から公式ホームページにAIチャットボットを設置している。

この度、本チャットボットの愛称を募集した結果、愛称の応募総数は93件（うち学生から70件、教職員から23件）あり、大学院理工学研究科の有我祐一先生の「おがるん」に決定した。有我先生は、学生とともに思考を柔軟にし、成長していくことを東北弁の「おがる」（大きくなる・成長するの意）から着想し、ひらがなで愛らしさを表現してこの愛称を考えた。

「おがるん」は、6月1日（水）の設置以来、10月25日時点で約2万件の質問に回答しており、今後さらに学生等のサービス向上及び職員の業務量削減につながることが期待される。主な質問内容は、「入学試験について」「学生生活について」「授業について」等のほかに「新型コロナウイルス感染症の対応について」の問い合わせも多く、体調不良時の対応の周知にも役立っている。

【背景】

2021年度から、山形大学におけるDXを推進するとともに、地域における“知の拠点”として、情報資源の活用を推進することを目的とした「山形大学DX推進室」が設置されました。DXにより山形大学が目指す将来像や教育・研究機能の強化、業務の効率化などの観点から、「教育」「研究」「業務運営」「人材育成」の4つの領域で全学的なロードマップを策定し、それぞれのDX推進に向けて活動を行っている。

チャットボット、RPA（ロボティクスプロセスオートメーション）の活用及びデジタル人材の育成等のデジタル技術を駆使した大学運営を展開していくことで、ポスト・コロナ時代の新たな教育システムの構築や学びの変革に向けた取り組みを積極的に進めている。

※用語解説

1. デジタルトランスフォーメーション：デジタライゼーション（データやデジタル技術）を基に企業全体でビジネスの変革を行うこと。
2. チャットボット：人工知能を活用した質問・応答システムのこと。
3. RPA（ロボティクスプロセスオートメーション）：ロボットやコンピュータ等による業務自動化。

お問い合わせ

総務部総務課秘書広報室

TEL 023-628-4008 メール yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp